



入学式の式辞で。

初めて出会う友達にも、仲違いしていた友達にも、「おはよう」「あそぼう」「さっきはごめんね」と思い切って声をかければ、きつとつながり始める。すると心は、春よりももっと春になる——。子どもたちに、そう話しました。

6年間の成長の始まり

また、4月5日の朝日新聞「天声人語」に、「人が宇宙を目指す最大の意味は、“宇宙を知ることで、人は地球のことに、そして故郷の素晴らしさに気づく”ことである」と書かれていました。それを取り上げ、保護者の方に次のことをお伝えしました。

入学した1年生にとって、新しい小学校への巣立ちは、宇宙旅行のような大冒険です。不安もいっぱい、気持ちも体もくたびれて帰ってくることもあるでしょう。でも家庭は、大冒険へ踏み出した子どもたちが「ただいま」と帰ってきた時の落ち着ける場所であってください。きつと大冒険をした子どもたちは、我が家が一番素晴らしい、大切な場所であるということに気づくでしょう。

怖がりながらホラー映画を見たがるのも、絶叫アトラクションを楽しむのも、必ず元の世界に帰って来られるという安心感があるからです。その世界から帰られなくなるなどというホラーを好んでみる人は希少でしょう。2分の1の確率で脱線するジェットコースターに私は乗りません。

子どもたちが挑戦できるのは、失敗して悔しい思いをしても、家に帰れば、必ず支えてくれる家族がいるからです。

先日の夕方。1年生の子どもとそのお母さん、そして幼稚園年長の弟が学校に来ていました。弟はお母さんから離れず、後ろに隠れるようにしていましたが、1年生の子はそこを離れ、いろいろな人の所へ駆け寄り、話しかけていました。



1組

2組



3組



たくさんの人と関わりながら、子どもは少しずつ親から離れていきます。親からしてみれば寂しくなるこの過程が子どもの成長でもあります。手は離れて行っても気持ちは離さず、どうぞお子様の拠り所であってください。

「夢さと」は、「夢」と「ふるさと」とを合わせた言葉です。ふるさとをキャンバスに様々な出会いを塗り重ねながら、自分なりの絵を描いてほしいと思います。その日常を「夢さと」でお伝えします。